＜全体集会発言＞　中国人研修生　嗎　桂芹

皆さん、こんにちは。私たち３人は熊本の農業実習生です。私はヒョウケギンと申します。昨年の全労連大会でも、発言をさせていただきました。あのときはたくさんのカンパもいただき、こんなにお世話になりました。今回は日本の都、京都での、集会に参加させていただく機会を与えていただき、ほんとうにありがとうございました。

　私たちは、昨年の４月に裁判を係争し、このたたかいを始めて１年半が過ぎました。１週間ほど前の５月15日には、私たち３人の本人尋問が行われ、とても緊張しましたが、私たちの弁護士の質問に対しては、適切に証言でき、相手方の弁護士の意地悪な質問にも、どうにか答えることができました。（拍手）

　私たちの在留期限は先月の４月19日に切れ、いまはカンギン制度で更新していますので、私たちが日本にいれるのは、あと３日となってしましました。27日には帰国する予定です。

　今日はこの場を借りて、いまの私たちの気持ちを言わせてください。皆さんのおかげで、いまの私たちがここにあると思っています。

　私たち３人のうち、私とカ・キョウメイさんは、この半年、トマトの農業実習を続けながら、裁判を、抗争を続けることができました。裁判になった途中で、協力いただける農家を見つけて、入国管理局が、実習の継続を認めてくれた事例としては、全国で初めてです。全国の皆さんが応援していただいたからこそ、こんなことが実現できたんだと思います。

　裁判の行方はどうなるかわかりません。でも、すでにこのひどい制度は、国の段階でも、地方の段階でも、改善が進んでいます。この制度がひどい制度だということは、もうだれもが認めているのだと思います。私は、勇気を出して立ち上がってほんとうによかったと思っています。（拍手）

　夏の暑いなか、熱中症になっても、病院にも連れて行ってもらえなかった、苦しい労働。「殺すぞ」という社長の怖い顔と脅しの声。物のように扱われた二重派遣。いまも思い出したくない、日本での重く嫌な思い出です。

　でも、私たちは絶対に忘れたくない、いや、忘れてはいけない思い出も手にすることができました。それはまず、私たちを支えてくれた県労連や、ローカルユニオン、弁護士の皆様の、正しいことのためには絶対に妥協しないという姿です。そしてその力強い運動を支える熊本、そして全国の皆さんの暖かい心です。実習委員会で働くことができない私たちのために、皆さんは財政的に私たちの生活を支えてくれました。先に帰国した縫製実習生の皆も含め、本来実習を続けていれば得られるはずの金額を、この間ずっと作り出していただきました。ほんとうにありがとうございました。

　この皆さんの思いは、私たちの宝です。私たちは、この宝を胸に、自信をもって、前を向いて歩いていきたいと思っています。

　裁判の結果は、まだ先でわかりませんが、私たちはすでにこのたたかいに勝利をしていると思っています。それは、私たちが、『＜研修生＞という名の奴隷労働』という本まで作られ、この制度の問題点を告発し、そして全労連が呼びかける、「他民族、他文化との共生の社会の実現」に向けて、全国に発信していることを見ればおわかりいただけるものと思います。ぜひ全国で私たちの本を普及していただきたいと思います。

　それから、同じ問題で、愛知労連の榑松さんが『トヨタの足元で』という本を出しておられます。会場の後ろの方にありますので、よろしくお願いします。こんな本を何冊も出せる全労連ってほんとうにすごいと思います。

　私たちは、中国に帰ってから何をすべきかと、いま思っています。しかし、これだけは言えます。それは日本で得た精神的な支柱を中国の皆さんに伝えることです。それは私たちにしかできないことだと考えます。日中友好のために、頑張りたいと思います。全労連の皆さん、この間ほんとうにありがとうございました。（拍手）